

小児救急 ハンドブック



鳥 取 県

(監修：鳥取県小児科医会)

～地域の医療を守るために～

全国的に小児科医不足が話題になっておりますが、鳥取県でも安心できません。これから先は確実に小児科医数が減少してくることが予測されます。

全国的に、「昼間は仕事がある」「夜間の救急は空いている」などを理由とした時間外・夜間の『コンビニ受診』を控えようという動きが今、広がっています。

お子さんの症状に応じた医療機関を受診することが重要であり、この冊子をご活用いただき、お子さんの病気やケガの対応に役立てていただくことが、地域の医療を守っていくために重要となります。

皆様のご理解と
ご協力をお願いします。



小児救急ハンドブックについて

この冊子は、休日や夜間などの通常の診療時間外に発症した病気について、家で様子を見てもよいか？小児救急対応医療機関※を受診した方がよいか？などの判断の目安のために作成しています。

生後1ヶ月から6歳くらいまでのお子さんの症状を対象としていますが、できるだけ簡潔にしてあります。

実際に小児救急対応医療機関※を受診するかどうかの判断はお子さんの保育者の方の判断によりますが、その判断の目安に役立てばと願っています。

※「小児救急対応医療機関」とは

その地域で、その日に、「小児の救急に対応する診療所や病院」を指します。

地域により、曜日や時間帯により、対応する診療所や病院（小児救急医療体制）の違いがあります。日頃から、お住まいの地域の小児救急医療体制について、かかりつけ医の先生などと相談しておくことをおすすめいたします。

注意

この冊子は、**お子さんが病気をしたときの判断の目安**となるものです。「様子を見る」とある症状でも、状態が悪化するようであれば速やかに小児救急対応医療機関を受診してください。

目次



■こんなときは、どうすればいいの？

- ①全身状態のみかた 2
- ②38℃以上の熱がでたとき(発熱) 3
- ③咳をするとき(咳嗽)、ゼエゼエするとき(喘鳴) 7
- ④下痢をしたとき 10
- ⑤吐き気(嘔気)や吐いたとき(嘔吐) 14
- ⑥おなかが痛いとき(腹痛) 17
- ⑦けいれん(ひきつけ)をおこしたとき 20
- ⑧やけど(火傷・熱傷)をしたとき 24
- ⑨頭をうったとき(頭部打撲) 27
- ⑩異物を飲み込んだとき(異物誤飲) 31

■病気になったらどこに行ったらいいの？

- ①救急医療のしくみ 41
- ②急患診療所ってどんなところ? 43
- ③とっとり子ども救急ダイヤル(小児救急電話相談) 43
- ④医療機関へ持っていくもの 44
- ⑤救急車の呼び方 45

■その他

- ①上手なお医者さんのかかり方 47
- ②急患診療所の案内 48
- ③お役立ち情報 50